

山元町 ^{かっせんはら}合戦原遺跡 現地説明会について

山元町教育委員会生涯学習課

このことについて、現地説明会を下記により開催しますので、是非、ご来場ください。

記

1. 日 時 平成 27 年 7 月 25 日(土) 午後 1 時 00 分から
2. 会 場 合戦原遺跡発掘調査現場 山元町高瀬字合戦原 100 地内 (宮城病院敷地北側)別添地図参照
3. 調査主体 山元町教育委員会
4. 調査協力 宮城県教育委員会
5. 概 要

(1) 調査の理由

山元町教育委員会では、宮城病院地区の防災集団移転促進事業及び災害公営住宅建設事業に伴い、事業計画地内に所在する合戦原遺跡について、平成 26 年 8 月から本格的な発掘調査を実施しております。発掘調査の実施に当たっては、発掘調査基準を弾力的に運用しているほか、早期に調査が終了するよう、他県からの応援を得て調査体制を強化し対応しております。昨年度、その一部の成果について現地公開を行ったところですが、今年度の調査で新たな発見がありましたので、再度、今年度の発掘調査箇所について公表するものです。

(2) 調査の成果

合戦原遺跡では、平成 26・27 年度の調査により、古墳時代終末期から奈良時代にかけての横穴墓 54 基、古代の竪穴建物跡 2 軒、製鉄炉跡 3 基、木炭窯跡 20 基、焼成土坑・土坑 60 基などを確認しました。中でも、横穴墓の調査成果が注目されます。今回の調査範囲は、本遺跡の横穴墓分布範囲すべてを網羅する形となっており、横穴墓の支群構成を含めその全容を把握することができる重要な調査となっています。これまで横穴墓群の全範囲を調査する事例は県内でも少なく、54 基を一度に調査している点でも学術的に貴重といえます。特に、今年度の調査では、横穴墓玄室の奥壁に「線刻画」を有するもの(1基)や玄室内に釘が打ちつけられたもの(2基)など、新たな成果が得られています。「線刻画」とは、横穴墓の壁に線を刻んで絵を描いたもので、今回発見された線刻画には、「鳥」や「人」などと考えられるさまざまな図柄が確認されており、その多様な図柄の線刻画は県内初の事例と言えます。玄室内に釘が打ちつけられた事例についても、県内で類例が少なく、当時の横穴墓の葬送方法を考える上で学術的に非常に貴重な発見となっています。また、出土遺物についても、昨年度の調査ではみられなかった銅製壺^{つぼ}、鉄製輪^{りん}、帯金具、鉄地金銅張の杏葉^{ぎょうよう}などの馬具や金銅製大刀^{たち}などの多種多様な副葬品が出土しております。中でも銅製壺^{つぼ}の出土は県内初となります。これらの出土遺物の様相や線刻画を有する横穴墓の存在から、合戦原遺跡で発見された横穴墓の被葬者については、この地域を治めた有力者層の集団であったと考えられ、馬具や線刻画が確認された横穴墓には、その中でも特に位の高い人物が葬られていた可能性が高いと推察されます。この他、今回発見された製鉄炉跡と木炭窯跡については、製鉄関連遺構と考えられ、近年山元町内で発見されている新中永窪遺跡・犬塚遺跡などの製鉄遺跡群との関連が窺えます。

★問い合わせ 山元町教育委員会生涯学習課 TEL : 0223-37-5116

(発掘調査担当 : 生涯学習課 山田 現場携帯 080-2813-0862)